

## 石廊崎沖集団密航事件

清水海上保安部警備救難 国人密航者計61人を逮捕し課長を拜命した約3カ月後 ました。

の平成7(1995)年9 日ごろ、海上保安庁が美月23日、伊豆半島石廊崎沖 施する強制捜査は、船内の領海内で不審な台湾漁船 殺人、傷害等の刑法事件やが発見された、との情報が発見された、との情報が入りました。その頃、全国各地で頻発し始めていた中国人による集団密航事件の1つです。「蛇頭」と呼ばれる密航請負組織の手引きにより、福建省沿岸で中国人密航者に乗せた台湾漁船が、人影の少ない石廊崎先端での上陸を狙った事件でした。台湾漁船を清水港に回航させ、台湾人船員と中

## 大切な大規模事案の後方支援

その体制を確立していった 査においても、刑務所での勾留のため借り上げた多数のレンタカーに被疑者を分

実際、清水保安部での捜 のレンタカーに被疑者を分

## 密航の中国人57人

### 下田 台湾漁船員4人も逮捕

九月十三日午後六時五分 急ぎさせた。午後七時四十九分、「かの」がそれらしい船を発見、海上模様が悪いため、下田港沖へ誘導して又検査場付近に着岸しようとした台湾漁船らしい不審船が露せざそのまを出港した、と通報がされた。

### 函館にベトナム人26人

九月十三日午前十時十分、松前警署から函館保安部を経て、管本部へ不審な不審船が航行している通報があった。江差保安監視船「まぐべつ」が調査したところ、十時十三分、松前灯

当時の本紙9月28日号1面

乗させて護送する際に、地に不案内な応援派遣職員が刑務所への道を間違えるといったハプニングもありました。その後の同種事件では、多数の被疑者の護送には借り上げたバスを使うこととなったきっかけです。

また、被疑者を保安部等の陸上の施設ではなく、岸壁に着岸した大型の巡視船に一時収容して初動捜査を行うといったことも、その後の集団密航事件捜査に受け継がれました。

当時、中国人の集団密航事件の捜査には、中国語の国際捜査官が不可欠であり、密航事件発生の度に、全国の中国語国際捜査官が各地の事件部署に繰り返し派遣されて対応に当たっていました。そのような捜査官の1人がふと漏らした「派遣先では風呂と食事にもいつも泣かされます」という一言は、大規模事案における後方支援の重要性を改めて認識させる言葉となりました。後に経験することとなった九州南西海域不審船事案においては、事案発生直後から本庁対策本部に弁当確保専従班を置いたもの

（第45代海上保安庁長官）  
11つづく